

1 図書館の動き

1.1 図書館長の交代

2018年4月1日付けで、吉田悦志国際日本学部教授（元副学長）が図書館長に就任した。任期は、前館長・山泉進法学部教授の残任期間である2019年3月31日までであった。吉田館長は、前館長の意思を引き継ぎ、図書館の事業計画を推進した。また、講演会スピーチや図書館刊行物の執筆や、対外的な場に出席するなど図書館長として図書館のために尽力し、2019年3月31日をもって定年退職を迎え、館長の任期を終えた。

1.2 図書予算の不足

図書館予算は、事務電算化処理費、図書費、一般経費、特定課題推進費から成る（6財政(1)参照）。図書費全体については、2018年度は、学習用図書及び研究用図書購入のための予算が2000万円追加されたものの、過年度において2013年度の中野図書館開館に対応する予算追加がなかったこと、2014年度の一律予算削減による影響が強く残っており、予算不足の状態に変わりはない。

加えて学術雑誌・電子資料費の価格高騰により、支払手数料・逐次刊行物費が学習用図書費・研究用図書費を圧迫している。これに対する対応として、2019年1月からElsevier社のサイエンス・ダイレクトPPV（pay per view）利用方法を申請方式に変更することで、不必要なダウンロードを減らし、予算の適正な執行を試みた。利用者への周知広報に時間を要したため、2018年度の実施期間は3か月間であったが、不要な利用の抑制に効果があったと考えられる。しかしながら電子資料費を予算内に抑えることはできず約4,300万円を超過した。

これまでも様々な見直しを行って対応策を講じてきたが、その効果は一過性で長続きするものではなく、次年度以降予算内容の抜本的な改革を図る必要がある。

1.3 電子資料費関連

価格高騰が続く学術雑誌への対応を電子資料WG（2017年度までは雑誌・電子ジャーナル契約検討WG）において進めてきた。2013年度末にElsevier社、2016年度にWiley社、2017年度にSpringer社のビッグディール契約をそれぞれ解消してきたが、図書館資料費に占める電子資料を含む学術雑誌費は2018年度決算において図書費の60%を超える状況である。パッケージ契約解消による購読経費の捻出という対処方法には限界があることは明らかであり、また、これまで実施してきたようなビッグディール契約解消の対象となるものもないことから、明るい展望が見えない中で今後の対応策に議論を費やした。

2017年度に雑誌・電子ジャーナル契約検討WGにおいて検討してきたElsevier社のサイエンス・ダイレクトPPV（pay per view）利用方法の申請方式への変更を2019年1月から実施し、利用状況の管理を行えるようにした。不必要なダウンロードを抑制した結果、2018年度は3か月間の実施であったが、前年度同期間と比べて25%に縮小された。これにより次年度への経費削減に期待ができる。

しかしながら、学術雑誌・電子資料費の高騰は今後も続くと考えられることから、図書館資料費のみで、必要とされる学術雑誌の全てを賄うことは不可能であり、予算のあり方について根本的に見直す必要がある。図書館資料費全体における学習用図書、研究用図書、学術雑誌費の配分比の見直しや大学の研究推進部署との協力あるいは分担による学術情報提供について新たに検討する必要がある。

また現在、学術論文のオープンアクセス化がこの問題への対応手段として国内外で考えられている。今後、機関リポジトリによるセルフアーカイブを通じて、オープンアクセスの推進の一翼を担うことが、大学図書館の任務となると考えられる。そのためには、本学所属研究者による学術雑誌掲載論文の機関リポジトリへの収載を進めるとともに、機関リポジトリへの収蔵について学内での制度化の検討が早急に必要である。

1.4 リテラシー教育事業

図書館として、主体的に図書館の使い方を説明する、情報資源の活用の仕方を教えるという取り組みは、30年を超える。現在の実施概要は、下表のとおり（実施回数などの実績は、「8 リテラシー教育の実績」参照）。

また、今年度は、図書館全職員を対象に行う合同職場研修会に時間を得て、「授業デザインの作成」、「先生

2018 年度 明治大学図書館年次報告書

のためのことばセミナー」を開催し、それぞれの活動において、講師を務める職員の「話す内容の構成力」、「話す力」のスキルアップを図った。

種類	主な個別名称	開催時期	内容・実施方法
オリエンテーション	新任教員説明会 新入生向け利用案内	4 月	・図書館の利用に関する基本情報。 ・新学期に実施。
ゼミツアー	ゼミツアー 図書館ガイダンス ゼミガイダンス グループガイダンス	4 ～ 6 月 9 ～ 10 月	・図書の探し方，論文の探し方，データベースの利用方法，館内案内など。 ・授業，学科等の単位で申し込みを受け付け，授業時間内に実施。
出前講義			
図書館活用法		4 ～ 7 月 9 ～ 1 月	・「図書館」，「情報」，「学術」3つのリテラシーの習得を目的とした講義と演習。 ・全学部の共通科目として開講。
各種講習会，講座		不定期	・学習，研究，就職活動等，さまざまな場面に即した資料，データベースの利用方法。 ・随時開催。